

㊦ カイケラボ (米子市)

米子市の皆生温泉のにぎわい創出に官民で取り組む皆生温泉エリア経営実行委員会と連携し、イベント開催や情報誌発行などを進めようと、2024年に発足。現在のメンバーは6人で、今年4月に一般社団法人化した。温泉街のポテンシャルを引き出し、観光客らの満足度向上に加え、地域住民にとって「住みよいまち」づくりを模索する。

20年に開湯100年を迎えた皆生温泉。観光地として全国から注目される一



地元住民に優しい温泉街



3月に開催された「ぐるぐるかいけ」

方、生活の場でもあった温泉街からは地元住民の足が徐々に遠く課題を抱えていた。カイケラボ代表理事の永井高幸さん(45)は「観光だけに頼ると繁忙期と閑散期の差が激しくて安定しない。地元の人に優しい皆生温泉をみんなと考える必要があった」と強調する。

温泉街の空間を活用した

「ぐるぐるかいけ」は、松林や空き地などの遊休地を利用して、各所に屋台や体験コーナーを設けてにぎわいを創造する取り組み。出店者には温泉街での商売を体験してもらうことで、空き店舗などへの新規出店を促す狙いもある。

市民が集まる拠点づくりを進めようと、25年には米子市観光センター(同市皆生温泉3丁目)に民設図書館「カイケノマド」を開設した。木製ボックスを組み合わせた本棚を設置し、棚ごとにオーナーを募って好みの本を置いてもらう。「源泉の熱を利用するなど、温泉資源と豊かな自然環境を今後も守り、多くの人にとってほしい」と永井さんは願う。